

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-155926

(43) 公開日 平成11年(1999) 6月15日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 6 1 H 39/06  
39/08

識別記号

3 1 1

F I

A 6 1 H 39/06  
39/08

3 1 1

Q

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平9-328131

(22) 出願日 平成9年(1997)11月28日

(71) 出願人 591003286

株式会社釜屋もぐさ

東京都文京区千石3丁目19番9号

(72) 発明者 富士 治左衛門

東京都文京区千石3丁目19番9号 株式会

社釜屋もぐさ内

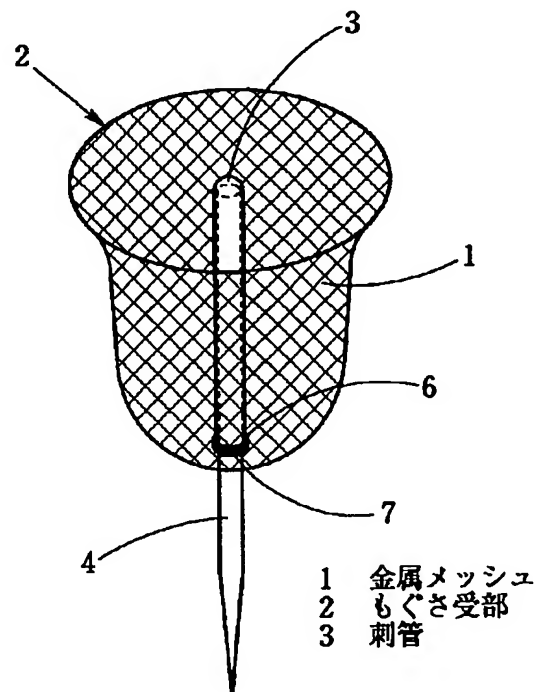
(74) 代理人 弁理士 森 廣三郎

(54) 【発明の名称】 灸頭鍼用キャップ

(57) 【要約】

【課題】 灸頭鍼用キャップについて、もぐさ又は燃えかすの落下防止が十分図れるほどに大きなもぐさ受部を有しながら軽く、燃焼するもぐさからの伝熱を妨げないようにする。

【解決手段】 灸頭鍼用もぐさ又は燃えかすを受けとめるもぐさ受部2と鍼4の竜頭に被せる刺管3とからなり、鍼4を挿入して竜頭を係止する刺管3を金属メッシュ1で形成したもぐさ受部2に挿通した状態で両者を一体化する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 灸頭鍼用もぐさ又は燃えかすを受けとめるもぐさ受部と鍼の竜頭に被せる刺管とからなり、鍼を挿入して竜頭を係止する刺管を金属メッシュで形成したもぐさ受部に挿通した状態で両者を一体化したことを特徴とする灸頭鍼用キャップ。

【請求項2】 もぐさ受部を略逆錐体状又は略逆錐台状としたことを特徴とする請求項1記載の灸頭鍼用キャップ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、灸頭鍼用もぐさ又は燃えかすが皮膚上に落ちることを防止する灸頭鍼用キャップに関する。

## 【0002】

【従来の技術】灸頭鍼用キャップ(以下、キャップと略する)は、灸頭鍼用もぐさ(よもぎのほか、よもぎや木炭のような草根木皮等の炭化物を含む)又は燃えかすが皮膚上に落ちることを防止する用具であり、もぐさ又は燃えかすを受けとめるもぐさ受部と鍼の竜頭に被せる刺管とから構成され、鍼で刺管を下方から支持する。もぐさ受部は、もぐさを包み込むような容体状のものと、もぐさの落下方向に広い面を有する略円盤状のものとがあるが、いずれにしても、プレス抜きした金属板から製造されていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】もぐさ又は燃えかすの落下防止の観点からは、もぐさ受部は大きいほど好ましいが、大きさに比例した重量増加を抑制するためにもぐさ受部の大きさには限界があり、従来のキャップでは十分な落下防止の機能は期待しえなかった。また、燃焼するもぐさからの伝熱を鑑みたとき、もぐさと皮膚との間に介在するキャップは薄いほど好ましいことになるが、薄いキャップの成形は、プレス工程を増やし、キャップのコスト高を招く。

【0004】そこで、もぐさ又は燃えかすの落下防止が十分図れるほどに大きなもぐさ受部を有しながら軽く、燃焼するもぐさからの伝熱を妨げないような灸頭鍼用キャップを開発するべく、検討を重ねることとした。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】検討の結果、開発したものが、灸頭鍼用もぐさ又は燃えかすを受けとめるもぐさ受部と鍼の竜頭に被せる刺管とからなり、鍼を挿入して竜頭を係止する刺管を金属メッシュで形成したもぐさ受部に挿通した状態で両者を一体化した灸頭鍼用キャップである。このキャップは、もぐさ受部を略逆錐体状又は略逆錐台状とするのが好ましい。刺管は、上端を閉蓋、下端を開放した円筒形状を基本とし、もぐさ受部は刺管の挿通部位と前記開放した下端縁部とを揃えて固着、一体化するが、鍼を挿入して竜頭を係止できればよいの

で、上端を開放しながら側面を傾斜させた錐台形状の刺管や、下端をもぐさ受部から更に下方に延設した長尺の刺管であってもよい。金属メッシュは、例えば、0.16mmφの鋼線を編み込んだ40メッシュのもの(茶こしに用いられるもの)がひとつの目安になる。

【0006】金属メッシュは、隙間が存在するがメッシュの目が細かければもぐさ又は燃えかすを十分受け止めることができる。むしろ、隙間が存在することから金属板に比べて軽く、人の手によって容易に変形しうる成形容易性を有する。このため、金属メッシュで形成したもぐさ受部は軽量で、大きなものを形成でき、しかも固化したもぐさに合わせて自由に外形を整えることができる利点を有する。また、伝熱性は金属板に劣らず、隙間から直接熱放射が見込めるので、もぐさの熱を無駄にしないで済む。

【0007】金属メッシュからなるもぐさ受部は、上面開放の容体状、例えば逆錐体状又は逆錐台状であると、もぐさ又は燃えかすを包み込み、ほぼ完全に落下を防止できる。この金属メッシュは人の手でも容易に成形できるから、成形、固化したもぐさの形状に合わせて改めて外形を整えてもよい。また、単にもぐさ又は燃えかすを受け止めることを考えれば、平面形状に形成した金属メッシュをもぐさ受部としてもよい。

## 【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態について、図を参照しながら説明する。図1は金属メッシュ1をラッパ形状に形成して得られたもぐさ受部2と刺管3とからなる灸頭鍼用キャップの斜視図、図2は同キャップの使用状態を表した断面図、図3はもぐさ受部2の周縁を低くしたキャップの使用状態を表した図2相当断面図で、図4は刺管3の頂頭部を低くして、鍼4に対するもぐさ受部2の高さを相対的に高くしたキャップの使用状態を表した図2相当断面図である。

【0009】本例のキャップは、図1に見られるように、金属メッシュの成形容易性を利用して、上面を開放したラッパ形状に形成した金属メッシュ1をもぐさ受部2としている。もぐさ5は、図2に見られるように、予め所定形状に固めたものを刺管3に刺し込むようにしてもよいし、もぐさ受部2に詰め込むことで所定形状に形成してもよい。本例のように、逆錐体状又は逆錐台状にもぐさ5を形成すると、鍼灸の効用を決定する皮膚に対する熱量を点火から燃焼終了まで一定にできる利点がある。なお、図3に見られるように、もぐさ受部2の周縁を低くしたキャップを用いれば、もぐさ5の頂上平面がもぐさ受部2の周縁から突出して点火が容易となるし、図4に見られるように、刺管3の頂頭部の高さを加減することで、鍼4に対するもぐさ受部2の相対的な高さを調節して、皮膚に対する熱量の加減を図ることができる。

【0010】図5はひも出し6と呼ばれる凸条を形成し

た刺管3を金属メッシュ1に挿通した製作過程1を表した部分拡大断面図で、図6は図5の状態から金属メッシュ1を挟むように更にひも出し7を形成して刺管3と金属メッシュ1とを一体化した製作過程2を表した同部分拡大断面図である。まず、図3に見られるように、ひも出し6を形成した刺管3を金属メッシュ1に挿通し、ひも出し6を金属メッシュ1に宛がう。続いて、図4に見られるように、突出部位8(図4中二点鎖線)を押し上げながら刺管3に上下方向の圧力を掛けて、ひも出し6を扁平に潰すと同時に、押し上げた突出部位8から余剰分を切除して支持環7を形成する。こうして、金属メッシュ1は扁平に潰された上方のひも出し6と下方の支持環7とによって挟持される形で刺管3に固着、一体化できる。

【0011】このほか、例えば図7(別例の図6相当図)に見られるように、上記支持環に座金9を宛がって、刺管3に加えた上下方向の圧力により扁平に潰れたひも出し6と前記座金9とで金属メッシュ1を挟持してもよいし、図8(別例の図6相当図)に見られるように、金属メッシュ1に予め嵌め込んだ鳩目10に刺管3を挿通し、この鳩目10に上下方向の圧力を加えることにより、鳩目10による金属メッシュの挟持を頑強にすると共に、変形する鳩目10を刺管3にかしめることで、刺管3と金属メッシュ1との一体化を図ってもよい。

【0012】本発明の金属メッシュからなるもぐさ受部は、金属メッシュが有する成形容易性から、上述の例以外にも様々な形状のものを例示することができる。例えば、上面開放の面積を増やした逆傘形状のもぐさ受部11を有するキャップ(図9：図1相当斜視図)、逆四角錐台形状のもぐさ受部12を有するキャップ(図10：図1相当斜視図)、側面が半径方向に膨出した三次元曲面である逆三角錐台形状のもぐさ受部13を有するキャップ(図11：図1相当斜視図)や逆六角錐台形状のもぐさ受部14を有するキャップ(図12：図1相当斜視図)等である。これらは、もぐさ受部としての高さを同じにしても容積が異なるため、もぐさの使用量に応じて使い分けるとよい。

【0013】

【発明の効果】本発明により、従来よりも軽量又は大型化したもぐさ受部を有する灸頭鍼用キャップを提供できるようになり、大量のもぐさ又は燃えかすの落下がほぼ完全に防止できるようになる。この金属メッシュからなるもぐさ受部は、金属メッシュが持つ成形容易性という性質から、製作しやすく、また固化したもぐさに合わせた整形が容易であるため、実際の使用にあたっての利便性が高い。また、金属メッシュであるために存在する隙

間が、これまでと違ってもぐさから直接熱を放射することを許し、鍼を介した伝導熱と放射熱との相乗が、従来よりも高い鍼灸の効果をもたらすことが期待される。このように、本発明のキャップは、安全性と鍼灸の効用を高める効果があるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】ラッパ形状のもぐさ受部と刺管とからなる灸頭鍼用キャップの斜視図である。

【図2】同キャップの使用状態を表した断面図である。

10 【図3】もぐさ受部の周縁を低くしたキャップの使用状態を表した図2相当断面図である。

【図4】鍼に対するもぐさ受部の高さを相対的に高くしたキャップの使用状態を表した図2相当断面図である。

【図5】キャップの製作過程1を表した部分拡大断面図である。

【図6】キャップの製作過程2を表した同部分拡大断面図である。

【図7】別例のキャップの製作過程2を表した図6相当部分拡大断面図である。

20 【図8】別例のキャップの製作過程2を表した図6相当部分拡大断面図である。

【図9】上面開放の面積を増やした逆傘形状のもぐさ受部を有するキャップの図1相当斜視図である。

【図10】逆四角錐台形状のもぐさ受部を有するキャップの図1相当斜視図である。

【図11】逆三角錐台形状のもぐさ受部を有するキャップの図1相当斜視図である。

【図12】逆六角錐台形状のもぐさ受部を有するキャップの図1相当斜視図である。

30 【符号の説明】

1 金属メッシュ

2 もぐさ受部

3 刺管

4 鍼

5 もぐさ

6 ひも出し

7 支持環

8 刺管の突出部位

9 座金

40 10 鳩目

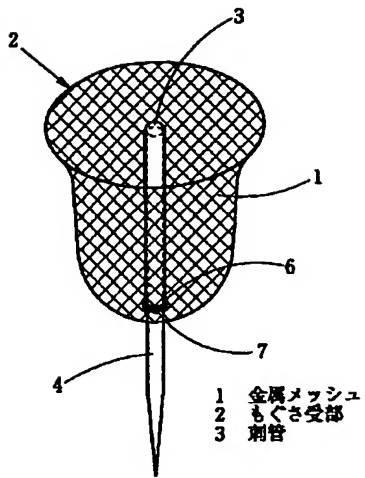
11 逆傘形状のもぐさ受部

12 逆四角錐台形状のもぐさ受部

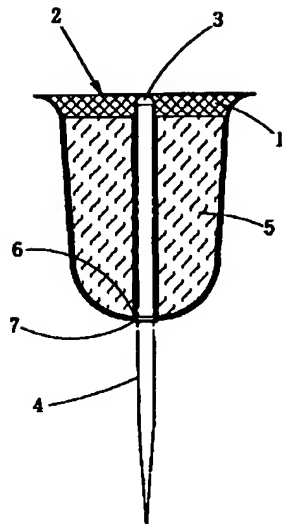
13 逆三角錐台形状のもぐさ受部

14 逆六角錐台形状のもぐさ受部

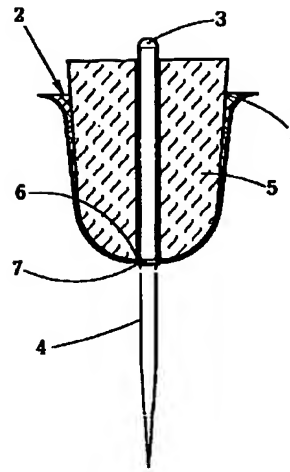
【図1】



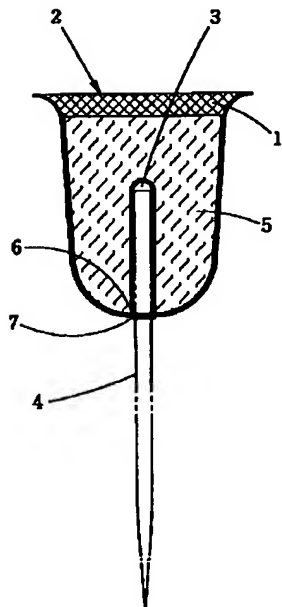
【図2】



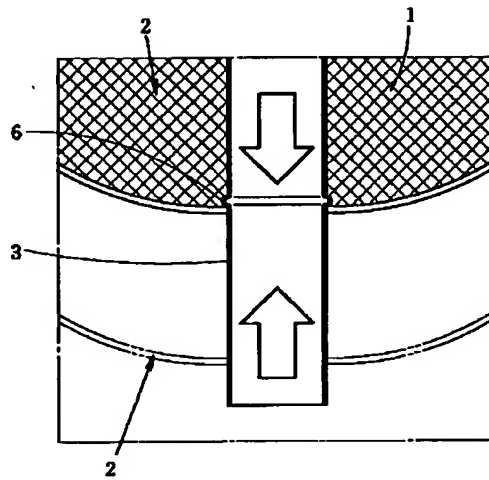
【図3】



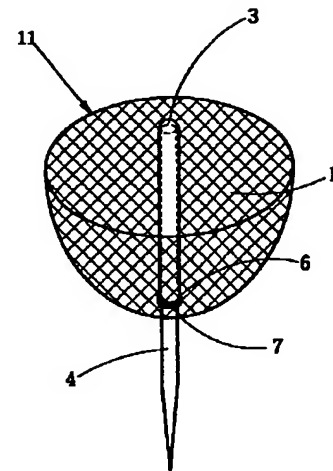
【図4】



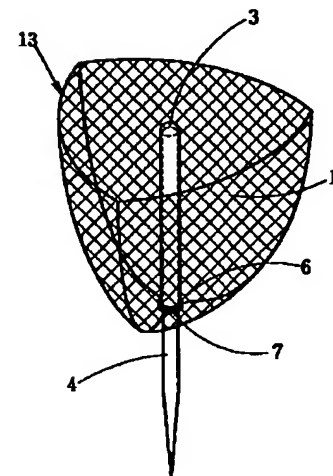
【図5】



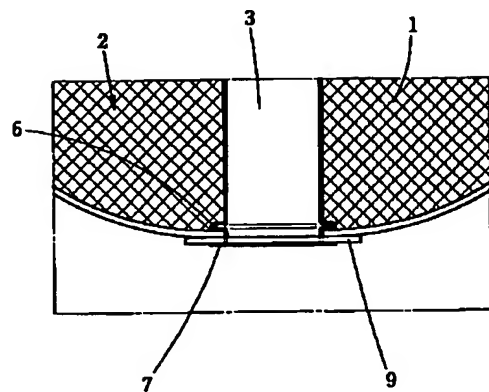
【図9】



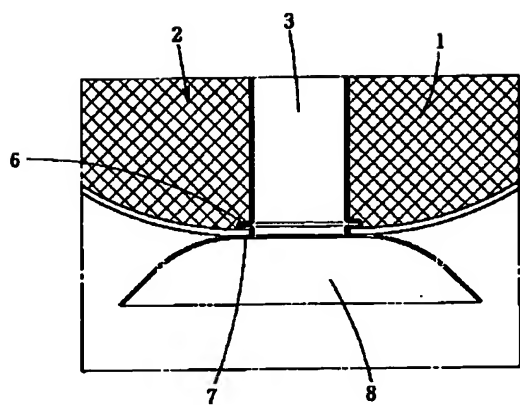
【図11】



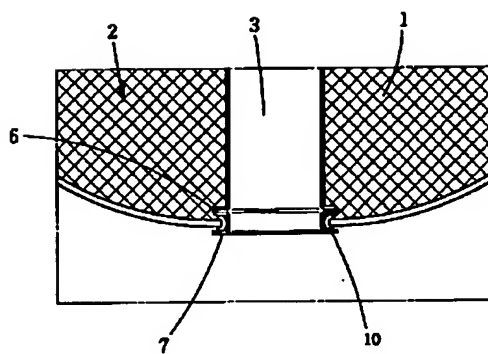
【図7】



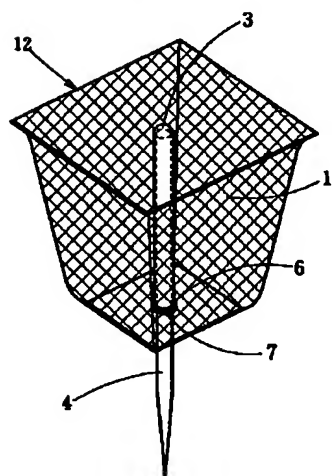
【図6】



【図8】



【図10】



【図12】

